

二〇一九年一月一日

七五三宮居に響く巫女の鈴

みづき

帰るさの道三日月がついてくる

満天

秋空に疎となりて立つ大ポプラ

もところ

売り声の大きさを買ふ冬菜市

たか子

穏やかな日差し集めて石路黄なり

三刀

紅葉散る無縁の墓の寧かれと

素秀

長旅の疲れを癒す庭の月

明日香

二〇一九年一月三日

ペランダに育てし菊を仏前に

はく子

信号機色滲ませて霧の朝

こすもす

秋落暉鳴門の渦に揉まれけり

せいじ

文学論枝豆食ぶ手忙しく

みづき

二〇一九年一月三日

日時計の影に纏れて秋の蝶

なつき

秋高し掛け声揃ふ部活女子

菜々

二〇一九年一月二九日

枝折戸の奥は苔庭薄紅葉

宏虎

二〇一九年一月二八日

玉垣に屑堆く金木犀

ぼんこ

幕末の剣豪揃ふ菊人形

宏虎

幕内に隊列なせる賞の菊

せいじ

身に入むや星美しき夜はことに

みづき

蒼天に一塵もなき鴟日和

宏虎

秋天を二夕分に切る飛行雲

三刀

新蕎麦や白磁の皿を幾重ね

うつき

二〇一九年一月二七日

幽谷の瀬音が奏づ秋の声

ぼんこ

蝦夷リスと逢ふ北国の冬の旅

たか子

秋澄める摩天楼より見る夜景

はく子

金継ぎの碗で一服紅葉晴

なつき

二〇一九年一月二六日

初鴨や朝日の湖に陣なせる

うつき

枯蓮七万石の濠埋めて

なつき

湯けむりを吹き上ぐ街や冬温し

たか子

啄木も此処に佇ちしか冬の海

たか子

雨含み山々いよよ秋深む

明日香

毎日句会みのもる選・二〇一九年一月三日